

総合統計書に関する検討会（第1回）議事要旨

1. 日 時 平成26年6月25日（水）16:00～18:00

2. 場 所 総務省第2庁舎6階特別会議室

3. 出席者

構 成 員：大林千一座長，川上和久委員，廣松毅委員，渡辺美智子委員

オブザーバー：吉井敏一東京都総務局統計部調整課長

：羽瀧（独）統計センター統計情報・技術部アドバイザー

総 務 省：井波大臣官房審議官，奥田統計情報システム課長（事務代理），近藤統計情報企画室長

4. 議 題

- (1) 総合統計書に関する検討会設置について
- (2) 総合統計書の現状の概要について
- (3) 今後の進め方について

5. 配布資料

資料1 総合統計書に関する検討会の開催について

資料2-1 総合統計書一覧

資料2-2 総合統計書に関する主な問題点

資料3 検討スケジュール及び検討内容

6. 議事要旨

- 開会に当たり井波大臣官房審議官より挨拶
- 事務局から議題に沿って資料説明を行った後，意見交換が行われた。

【主な意見】

- (1) 総合統計書に関する検討会設置について
 - ・ 了承。
- (2) 総合統計書の現状の概要について
 - ・ 総合統計書相互の位置付けがわかる一覧表を統計局ホームページに掲載した方がよい。
 - ・ 各総合統計書のホームページや e-Stat で統計表を無料で閲覧できるため，電子媒体での提供と，紙媒体での報告書の購入者とのバランスをとる必要がある。

- 大学の図書館については、保管場所が限られているため、電子媒体での提供が望まれる。しかし、紙媒体の統計書のニーズが無くなった訳では無い。
- ユーザーは長期時系列統計があると使い勝手が良い。時系列データについては、どのようなデータがあるのかが分かる所在情報のガイドブック・冊子のようなものが紙媒体であると良い。
- 総合統計書の整合性についてはどの項目がどの章（分野）に属するのかというよりも、検索する際に色々な観点・軸から見ても必要なデータが見つかる事が大切である。

時代背景も考慮して将来的に章（分野）立てを考える必要がある。

- 市区町村統計表は、自治体では自分の地域の全国 1 位の項目に注目している。報告書にそういうものがあれば、地域振興の基礎資料の核になる。
- 日本統計年鑑は明治 15 年から刊行しているので、文化財という形で紙媒体として継承したらどうか。
- データベース化については、基本計画部会ワーキンググループでも将来的には高次元のデータキューブを作り、そこからデータがとれないかという議論がある。技術的な進歩を見通しておくことも必要。

(3) 今後の進め方について

- 了承。

<文責：事務局（今後、修正することがあり得ます。）>

以 上